

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム おらほの家 (別家)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390800092		
法人名	特定非営利活動法人 明成会		
事業所名	グループホーム おらほの家 (別家)		
所在地	〒028-0526 岩手県遠野市下組町11-49		
自己評価作成日	令和5年7月1日	評価結果市町村受理日	令和5年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街に位置しており、ホールから、自然豊かな野原と山が前庭の様に見られる。野鳥や鹿などを見ることもでき、日々の天候や季節の移り変わりを、目や耳で感じられる環境である。地域の自治会に加入しており、班長として戸別配布を行ったり、お祭りに参加するなど、地域活動を利用者と職員が共にしている。また、菜園で育てた野菜の収穫や、四季の山菜の下処理を利用者と一緒に行い、食事に提供している。地域で暮らす普通の暮らしを大切にしながら、ホームの名の通りに、利用者一人一人にとっての我が家「おらほの家」に近づけるよう、日々取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、中心市街地に通ずる主要道路沿いに立地し、周辺には事業所や住宅があり、生活環境に恵まれている。敷地内には同法人のグループホームがあり、運営推進会議や防火訓練の共同開催や研修会の開催など、相互に支援、協力しながら介護サービスを提供している。運営にあたっては、運営推進会議の助言や意見、利用者や家族の要望、職員の提案などを受け、業務の改善や施設の整備に努めているほか、利用者の残された能力を活かし、職員と共に支えあい、家族的な雰囲気大切に利用者本位の介護サービスを提供し、利用者の安心と家族の信頼に繋がっている。また、コロナ禍により、地域住民との交流が制限されるなかでも、機関紙「おらほの家便り」を回覧板を通じてお知らせしていることもあり、住民からの声掛けや野菜の提供を受けるなど、従来の関係を大切に取組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年8月30日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は、利用者の皆様が、自宅で暮らしているように、自然に笑い、自由に活動できる環境作りに力をいれており、職員も同様に取り組んでいる。	法人の定めた基本理念のもと、3か月ごとにスローガンを定め、毎月のミーティングや申し送りノートを通じて、職員間で共有し、笑顔を大切に家族的な雰囲気の中で、日々の介護サービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	班長や地域のお祭り(見学・参加)を通して、自治会の活動に参加していたがコロナ禍でできていない。日常生活では、利用者の皆様と施設の周りを散歩の際に、挨拶を交わしたり、世間話ができ、交流できている。	自治会に加入し、事業所の様子を記載した「おらほの家だより」を地域の回覧板に添付し事業所の活動状況を地域住民にお知らせするとともに、散歩時の声掛けや野菜の提供をいただくなど、コロナ禍で交流が制限される中であっても、地域住民との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度、施設の様子を掲載したお便りを、地域の回覧板を通して発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の状態や活動、施設の様子や悩みなどを報告し、委員の皆様から感想や助言を頂いている。頂いた内容は検討し運営に生かされている。	感染症対策(状況報告、家族との面会対応など)や職員確保への助言のほか、発電機の整備確認、地域の祭りの開催状況の報告など、具体的な提案をいただき業務に反映させている。	コロナ禍のため参加を見送っていた家族や利用者の参加を働きかけ、会議の充実と、より一層利用者や家族の意向に沿った介護サービスの提供を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で情報の交換、相談を行っている他、専門の部署にその都度相談でき、協力を頂いている。	運営推進会議での助言のほか、広報や文書、メールを通じて各種情報の提供を受けている。要介護認定事務や生活保護受給に伴う諸手続きの指導も受けている。災害情報は、防災無線の情報端末から入手している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊がある場合は職員が付き添いを行う。玄関の施錠、スピーチロックを含め、身体拘束を行わないケアに職員一同努めている。	職員2名、管理者、所長補佐による会議を開催し、会議の結果や対策を、職員に周知している。特に、スピーチロックには配慮している。身体拘束事例はなく、夜間の玄関の施錠のみである。離床確認のため、センサーマットの活用や布団への鈴を付けている。ヒヤリハットの原因の確認や職員への研修会も開催している。	

事業所名 : グループホーム おらほの家 (別家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する内部研修を行っている。業務の中でも虐待が起きないように、職員間で情報や、どこでどのようなケアをしているのかを共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について関わる機会があり、担当者から学ぶ機会があった。今後も必要に応じて説明に来てくれると担当者よりお話を頂いた。支援が必要な方に繋げられるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	安心して利用して頂けるように、丁寧で分かりやすい説明を心掛けている。また、利用者家族様とは普段から連絡を取り合い、良い関係を維持できるよう努めている。解約に至る際も同様に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が話しかけやすい雰囲気作りに努めている。電話や来所があった場合には、こちらから、声を聴かせていただけるような働きかけをしている。	家族へ機関紙を2カ月に1回送付するほか、居室担当作成の手書きのお便りで生活状況をお知らせし、家族の理解を得ている。随時の電話連絡や通院、面会時の聴き取りなどにより家族の意向を把握し、対応している。利用者のお手伝いや買物、外出の要望を受け、対処している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員一人一人の要望や、事業に対する意見等を話せる環境作りを行っている。意見や要望を運営側へ繋げ、反映できるようにしている。また、運営内容等を職員に伝え、理解協力してもらえよう努めている。	管理者と所長補佐による職員の面談を年2回開催し、勤務体制や休日の取得、職員不足への対応、研修参加や資格取得の要望などを聴き取り、できるだけ反映させるように努めている。夜勤についての要望があり、夜勤専従の職員を配置することによって勤務体制が改善されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日常的に職員が話しやすい環境作りに努め、職員一人一人の頑張りを認めている他、面談を通して、個々の要望を把握している。		

事業所名 : グループホーム おらほの家 (別家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップ研修や働きながら資格取得ができるように、補助制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で外部研修に参加することもなかったが、今年は10月に管理者が外部研修に出席する予定がある。研修内容は職員にフィードバックしていく。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、利用者家族と面談を行い、本人の思いと、入居までどのように過ごして来られたのかを聞き取り、入居されてからは、早く慣れて安心して生活できるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり、ご家族からのお話を傾聴し、ご利用者様にどの様な生活を送っていただきたいかも伺っている。電話で入居後の様子を伝え心配事は無いか尋ねている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、関係機関に聞き取りを行う他、ご本人との関りの中で、必要なサービスを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人の得意な事や経験が生かせるような場面を、家事など利用者と職員と一緒にできる事の中で作り、教えて頂いたり、手伝って頂いたり、手伝ったりと共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ利用者本人の情報を提供共有し、家族の意向を大切にしながら、安心信頼して頂けるように努めている。面会や手紙、電話などで家族との時間を大切にできるように支援している。		

事業所名 : グループホーム おらほの家 (別家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院や行きつけの場所など継続して出かけられるように支援している。	コロナ禍により、敬老会への参加はできなかったが、地域の方に記念品を届けていただいたり、女子会(元生徒)作成の色紙などの提供がある。行きつけの商店での椿油、肌着、お菓子などの買物依頼への対応のほか、墓参を希望する利用者に同行、案内した。美容院は、2か月に1回、出張整髪している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の輪に入り、利用者一人が孤立することなく、入居者がお互いを仲間のように思えるような関係作りに力を入れている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養入所や入院などで退所された場合でも、家族から相談を受け、支援している。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話や表情から本人の意向を把握するように努めている。利用者から相談を受けることもあり、傾聴し、支援に反映している。	個々の利用者の思いを把握して、植木への水遣り、廊下の掃除、メモ用紙づくりなど、その人のできること、やりたいことの役割を決めて手伝ってもらっている。洋裁の得意な利用者には裾上げをお願いし、お礼のレッグウォーマーをあげるなど家庭的なエピソードもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族からの聞き取り、関係機関からの情報提供などで把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人と生活する中で現状の把握をし、日々の小さな変化を見逃さず、職員間で共有している。アセスメントと毎月のモニタリングを繰り返し、今必要な支援を見極めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の変化などを、時間を空けずに家族と話し合えるようにしているので、早い対応が取れている。また、日々の業務やミーティングで職員と意見交換を行い反映している。計画には家族の要望も取り入れており、状態の変化による見直しも定期的に行っている。	居室担当による毎月のモニタリング(チェック表)の実施、ミーティングでの検討、管理者、ケアマネによる協議などを経て、原案を家族等に説明し意向を確認の上、作成後に利用者や家族に説明している。長期、短期ごとに検討を加えている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おらほの家 (別家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録に事実を記録、日誌には一日の変化や、注意事項を記録、申し送りしている。これらを使い職員各々が情報を共有する他、口頭でも勤務している同士リアルタイムな共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お墓参りや、パンを買いに行きたいなど、本人が思った時に対応できるよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバー(民生委員、地域包括支援センター)に消防訓練に参加していただき体制を確認したり、ホームでの様子や取り組みを情報提供し意見を頂いて支援に活かしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医に継続して見てもらえるように、家族や利用者の希望に配慮しながら通院介助を行っている。往診対応頂き、ワクチン接種や定期受診を行っている。	訪問診療は2名、他者は家族同伴で受診しているが、要請により職員が同行している。バイタルチェック表のほか生活状況を記したお知らせを提出している。受診記録は個別にファイル保管している。精神、眼科、皮膚科なども同様である。歯科は協力医を受診。ワクチン接種は協力医が実施した。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の健康管理や、身体状況の把握に努めている。体調不良や急変時には、速やかに連絡して指示をもらう体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、入居中の様子を情報提供し、家族と一緒に病状説明を受けるようにしている。家族と利用者の希望に配慮しながら早期退院に向けた支援を行っている。病院関係者とは日頃から良好な関係を築いている。		

事業所名 : グループホーム おらほの家 (別家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期について家族に説明し状況の変化に応じて家族の意向に沿った支援を心がけている。現在まで看取りの実績は無いが、事業所の方針と家族の協力を得ながら、利用者が安心して終末期を迎えられるように取り組んでいく。	重度化した場合の対応について、入居時に説明し、看取り指針に同意を得ている。事業所内での看取り経験はないが、介護度3を一つの目安としており、特養への申し込み手続きを準備している。職員は年1回看護師からターミナルケアについての講義を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修を受けて、急変時に対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害避難に対しての訓練は不足していると思う。災害時の停電に対応するため、ガスを燃料とした発電機を設置した。館内の電力を10日ほど発電できる。設置は、地域にも運営推進会議等を通してお知らせしている。	火災対応の総合訓練を年2回、消防署員の立会いで実施した。火災発生場所と避難経路、誘導手順などの講評を次回に活かすこととしている。夜間想定は年2回実施した。ハザードマップで浸水地域、避難場所を確認している。移動すること、移動先に不安があることなどの課題を抱えており、法人と関係機関との調整も検討している。備蓄食品は3日分確保し、ガス発電機、コンロを整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴時には特にも不快感を与えない様に、十分な注意を払いながら、言葉かけを行い、他の人の目や耳に触れない様にしている。	個人情報、手書き、パソコン搭載とも管理を徹底(施錠保管、パスワード使用)している。入浴は異性介助の問題はない。夜間の排泄は、ポータブルトイレで対応している。生活歴など、本人の心情を大切に、言葉遣いなどに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、利用者には選択と決定を出来るような接し方をしている。(おやつや飲み物、服を選んで決めてもらい飲食や着用をしてもらうなど)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の様子や希望に沿って対応している。利用者各々のペースで生活できている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おらほの家 (別家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時だけでなく、身だしなみを自身で整える機会が持てるよう支援している。馴染みの美容室がある方は利用を継続して頂き、化粧品なども気に入っている物を使用できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者から味付けや、量のなど好みを伺い対応している。野菜や山菜の下処理など一緒に行う。行事の時は一緒に食事をとっている。	食材を近くのスーパーで入手し、職員が調理している。利用者は、ヨーグルト作り、枝豆取り、もやしの下準備、お茶碗の配膳などのお手伝いをしている。菜園のトマトのほか、農家の差し入れの野菜も活用している。キザミ、トロミ、お粥なども提供している。季節ごとの行事食(赤飯、おさしみ、年越しそば)のほか、すいか割り、焼き芋、栗、ミズキダンゴなども提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事摂取量を確認、把握し、体調や状態に合わせた量や形態を工夫している。可能ならば、本人に確認し、了解を得て行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせてさりげない声掛けや介助で支援している。口腔ケアが健康上重要である事を職員は理解している。自分の歯が残っている方には定期的な歯科受診や治療通院の支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄のパターンを把握し、トイレでの排泄ができるよう力を入れている。利用者がトイレに行きたい時にすぐ誘導できるようにしている。トイレの戸や近くに分かるように、トイレやお便所と、張り紙をしている。	排泄チェック表で、動向を把握した声掛けのほか、様子や仕草を見て案内している。失敗した場合は、心情に配慮し、それとなく誘導している。布パンツは1名で、他者はリハビリパンツにパットを併用している。夜間のポータブルトイレは3名利用している。トイレにスポットヒーター設置や猫の写真を貼付している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の体調を考慮しながら、朝食時の牛乳、食物繊維の多い食材を使う、毎日ヨーグルトを提供、適度に運動する事等を心掛けている。		

事業所名 : グループホーム おらほの家 (別家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合った支援をしている	入浴の日程は大まかに決めているが、汚染があった場合や、本人が冷え等で入りたいと希望があった時は、入れるようにしている。	週2、3回の入浴としている。時間や曜日は特定せず、利用者の様子を見て対応している。入浴を嫌う利用者1名は、入浴を働きかけながら清拭やドライシャンプーで対応している。入浴剤のほか、ヨモギ、ゆず湯を提供している。また、入浴時は、世間話、歌で楽しんだり、職員とのコミュニケーションの場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動し、夜間に眠れるよう支援しているほか、好みの布団や室温が個々で違うため、本人の好むものに調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとの服薬情報を把握するようにしている。新たに薬が追加になった場合は、服用後の様子を確認、申し送っていき状態を共有する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員各々が、利用者の好みを把握して支援している。日々の雑談、レク活動や、ドライブなどで利用者は気分転換をしている。趣味(編み物や縫物など)が続けられるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員は、本人と買い物、通院、散歩の他など行っている。また本人との会話の中で希望していたことを家族に相談伝え、一時帰宅や、家族とのドライブ、道の駅でアイスを食べてもらうなど協力を頂き実現させている。	散歩は施設の周辺を散策している。近くのドラッグストアへのパンの買出し、家族とのドライブ(車椅子対応車)に出かける利用者もいる。花への水遣り(テラス、ホール、前庭)、草取りなどを行っている。ドライブ(8人乗り)は、桜、アジサイ、紅葉見学に出かけている。近くの鍋倉城址、五百羅漢にも出かけている。利用者の自宅周辺も周遊している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、現金を所持している方はいない。預けている事を理解されている方には、支払い時、本人の手で支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があればその都度支援している。また、職員から電話や手紙を書けるように支援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おらほの家 (別家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内に危険な物が無いようにし、自室や共用部分は職員の見守りで、自由に動けるようにしている。窓から見える様子を話したり、装飾で季節感を感じてもらえるよう環境を整えている。光や温度に敏感な方もいるので、何がダメなのか把握してストレスをかけないようにしている。	エアコン、ガスヒーター、加湿器などで、温度、空調を適正に管理している。天窓と引き戸による採光で室内は明るく、クリーム色の壁、木調の床のツートンカラーで、季節ごとの飾りのほか、壁には、ちり紙の細工絵、活動の写真などで飾られており、落ち着いた雰囲気となっている。広々としたロビーの食事用テーブルやソファなどで利用者は、くつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が交流できるよう席に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と相談しながら配置を決めている。	エアコン、換気扇、ナースコール、テレビ端子が設置されている。利用者は、ベット(レンタル)、布団、衣装ケース、イス、化粧品、家族写真などを持ち込んでいる。利用者の意向に沿った、配置となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差は無く、動線に配慮して椅子や手すりを設置して、利用者が自由に活動できるようにしている。居室に表札をつけたり、トイレ、洗面所にも、トイレ、洗面所と書など支援している。		